



教室での個人レッスンの風景。「彼女は上達していますが、精神面が弱くて、すごく緊張してしまうのです」と山本さん

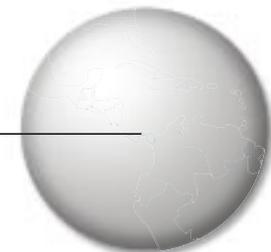
FIELD SKETCH

クラシック音楽を通じて広がる ボランティアの輪

中米パナマの大学でピアノを教える青年海外協力隊、山本英恵さんは、大学の同僚や隊員の仲間たちと協力して、地方の村でも音楽教室を開いている。非行に走る少年少女や、貧しい生活を強いられている人々を、笑顔にする音色が奏でられている。

文 = さかくち とおる (著述家)
text by Sakaguchi Toru

パナマ
PANAMA



山本さんと石川さんが力を合わせて今年6月にパナマ大学で開催した原爆展では、原爆の被害や日本の復興を紹介し、学生をはじめ多くの人が見に訪れた

大学でピアノを指導

「もっと音に強弱を付けて、滑らかに。そして肩の力を抜いて」

国立パナマ大学芸術学部の教室でピアノの個人レッスンが行われている。熱心に学生を指導しているのは、青年海外協力隊の山本英恵さん。彼女が指導しているピアノは、バイオリンを一回り大きくしたような弦楽器だ。パナマ大学にはピアノを指導する講師がいなかったため、山本さんが派遣され、個人レッスンを中心に授業を行っている。

「今教えている学生たちは一生懸命練習して、少しずつ上達しています。しかしこれまで何人かの学生がピアノに挑戦しては、脱落しています。もっと努力してほしいかったです」

山本さんは同期隊員の石川奈穂さんともJICAの支援を得て、今年6月にパナマ大学で日本の原爆被害を紹介する展示会を開催した。周囲のパナマ人たちは、日本が戦後の焼け野原から復興して、現在のように発展したことに驚いたようである。「原爆展を機に、学生たちの考え方も少し変化した気がします」

パナマの産業は、運河の通関業務に代表

される第三次産業に偏在しており、自分たちで何かを創り出すという発想が希薄である。学生の音楽

に取り組む姿勢も、こうした国民気質が影響しているように思えてならない。しかし、原爆展を通して日本人の戦後の努力が理解され、学生に何らかの刺激を与えることができたようだ。

音楽で少年少女を更生

パナマ大学にいる山本さんの同僚サムエル・コレオンさんは、多岐にわたって活動している。周囲から「ロコ」(スペイン語で「変わった人」の意)と呼ばれているが、ある意味で尊敬の念を持たれているようだ。彼はコンサートバス奏者で、これまで軍楽隊や国立交響楽団などで演奏。その一方で、貧困層の子どもた



クラリネット奏者の学生が、ピアノに取り組む。「この生徒は一度、ピアノを挫折したのですが、再び挑戦したいという希望で、基礎から教えています」



ソロイからさらに徒歩で4時間ほどかかるボカ・デ・バルサでも音楽教室を開催。子どもたちにリコーダーを教えた



現金収入を求めて 出稼ぎに行く先住民

カリブ海のサン・ブラス諸島に行ったときのこと。地元の前住民クナ族のある男性が「日本にも行ったことがあるよ。貨物船の船員として働いていたんだ」と語った。

クナ族の男性たちは、都市部での港湾労働など、出稼ぎ経験のある人も多い。サン・ブラス諸島は農耕できる作物が限られており、観光業と漁業のほかは目立った産業がない。民芸品販売のため、女性たちも都市部へ足を運ぶ。

パナマ西部の高原都市ボケテでは、コーヒーの実を収穫する先住民ノベ・ブグレ族に会った。彼らは収穫期に家族連れでコーヒー農園へ出稼ぎにやって来て、数カ月間、住み込みで作業に従事するそうだ。

パナマには全人口の1割に当たる、およそ30万人の前住民がいる。しかし彼らの居住環境は悪く、その多くは貧しい生活を強いられている。現金収入を求めて出稼ぎに行くものの、恩恵を受けられるのは、先住民全体で見るとごく一部の人たちに限られる。



高原都市ボケテのコーヒー農園で働くノベ・ブグレ族の親子

化・習慣がないという。歌を口ずさむこともなくなってしまった彼らが、再び音楽を取り戻すことができないかサムエルさんに相談してみると喜んで賛同してくれた。実は彼自身、ノベ・ブグレ族の子孫だったのだ。「人々がどんな反応をするかわからなくて不安でしたが、『できないはずはない』と気持ちを奮い立たせてやってみることにしました」。

山本さんはソロイでの音楽教室を企画し、溝口さんと石川さん、同じく隊員の田中大輔さん、パナマ大学からはサムエルさんと、山本さんの指導を受ける2人の学生、計7人が参加して今年1月に教室を開いた。

首都から最寄りの都市ダビまでバスで8時間、そこからソロイまで未舗装の山道を車で3時間揺られて行く。ソロイだけでなく、そこからさらに徒歩で4時間ほどかかる集落、

もたちを相手に、音楽を教えたかったという。情熱溢れるサムエルさんに刺激され、今年1月から定期的にチェゴに出張指導に行くようになる。さらに同じ大学でチェゴを指導している青年海外協力隊の徳本有美子さんも加わり、現在はほぼ毎週末チェゴに通う。彼らの指導のもと、10数人のバイオリン、30人ほどのリコーダー（縦笛）の生徒がクラシック音楽に取り組んでいる。

何か問題はないかと尋ねてみると、「残念ながら、生徒の親たちの理解が足りないのです」と山本さん。クラシック音楽になじみがなく、どんな音楽か知る機会がなかった親にとっては、子どもたちの自宅での練習が騒音に感じてしまうそうだ。

「でも本当はクラシック音楽を勉強することが大事でも、楽器を弾けることが大事でもないのです。大切なのは、彼らが、辛くても毎日楽器を練習して、少しずつ上達する喜び、そして楽器を弾けるようになって自身を表現する喜びを感じることに思っています。その過程で、我慢することや努力すること、苦難を乗り越える方法を学んでほしいと思います」

ボカ・デ・バルサにも足を運んだ。日本の小学校でも使われているリコーダーを10本用意し、子どもも大人も含む生徒に吹き方を指導する。持ち方さえ知らない彼らだったが、吹き加減や指の押さえ方を少しずつ覚えて、簡単な曲が合奏できるようになった。「生徒たちはほかの住民から尊敬のまなざしで見られ、そのまなざしがさらに彼らの意欲を高めたのです」。この経験に刺激を受けたパナマ大学の学生たちも、自分たちで何かできないかと動き始め、学生有志の室内楽団をつくり、「次にソロイに行くときは自分たちの楽器を持参して、グループ編成での室内楽演奏を聴かせたい」と意気込んでいるという。

雨の多い時期は道がぬかるんで楽器の運搬が困難なため、遠征は雨期が明ける12月以降でないと難しい。山本さんの任期は来年3月までだが、ぜひ実現させてほしい。



山本さんが企画したソロイでの音楽教室は、サムエルさんやパナマ大学の学生、青年海外協力隊の溝口さん(後列右から3人目)、田中さん(後列左端)、石川さん(前列右から3人目)の協力で実現した



山本さんと徳本さん(右)は、同僚のパナマ人とともに室内楽カルテットを組んでいる。学内の行事に出演することが多く、原爆展の開会式でも演奏した

先住民の村でも音楽指導

昨年、山本さんは休暇を利用して、パナマ

の西部で活動する同期隊員のもとを訪れた。ノベ・ブグレ自治区にあるソロイは、先住民ノベ・ブグレ族(グアイミー族)が暮らす貧しい村で、溝口航太郎さんが村落開発普及員として派遣されている。

ソロイの住民の多くは昔暮らしていた土地を追われ、現在の山間部に移住した人々。農業と民芸品によりわずかな現金収入を得るだけの貧困生活を余儀なくされている。娯楽はほとんどなく、人々は全般的に暗い表情をしていた。「ソロイから戻った後、音楽を通じて自分に何かできることはないかと考えました」

ノベ・ブグレ族はかつて自分たちの音楽を自分たちの楽器で奏でていたが、現在の土地に移住後、そのことが次第に忘れ去られ、今の世代の人々は、歌ったり踊ったりする文

FIELD SKETCH

ちのためにボランティア活動を行ってきた。現在サムエルさんは、首都パナマ市から東にバスで2時間ほどのチェゴという小さな町で、子どもたちに音楽を教えている。壊れたバイオリンなどを自分で修復して贈り、クラシック音楽の指導をしてきた。この町では未成年の飲酒や麻薬吸引、万引き、未婚少女の妊娠など、非行問題が少なくない。

「子どもたちを音楽に熱中させることで、更生するという意味合いもあるようです」

山本さんはサムエルさんに誘われてチェゴへ行ってみた。もともと彼女が青年海外協力隊に応募したのは、若いうちにボランティア活動をしたいと思っていたからだ。特に子ど

もたちを相手に、音楽を教えたかったという。情熱溢れるサムエルさんに刺激され、今年1月から定期的にチェゴに出張指導に行くようになる。さらに同じ大学でチェゴを指導している青年海外協力隊の徳本有美子さんも加わり、現在はほぼ毎週末チェゴに通う。彼らの指導のもと、10数人のバイオリン、30人ほどのリコーダー（縦笛）の生徒がクラシック音楽に取り組んでいる。

何か問題はないかと尋ねてみると、「残念ながら、生徒の親たちの理解が足りないのです」と山本さん。クラシック音楽になじみがなく、どんな音楽か知る機会がなかった親にとっては、子どもたちの自宅での練習が騒音に感じてしまうそうだ。

「でも本当はクラシック音楽を勉強することが大事でも、楽器を弾けることが大事でもないのです。大切なのは、彼らが、辛くても毎日楽器を練習して、少しずつ上達する喜び、そして楽器を弾けるようになって自身を表現する喜びを感じることに思っています。その過程で、我慢することや努力すること、苦難を乗り越える方法を学んでほしいと思います」



首都から車で11時間以上かかるソロイで、子どもたちにリコーダーを教えるサムエルさん



夜の教室では主に大人たちが参加し、吹き方を教わった